

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

生活 第14号

—小学校，特別支援学校対象—

平成25年4月発行

気づきの質を高める「見付ける，比べる，たとえる活動」

これまでの生活科の課題として，学習が活動や体験だけで終わり，それらを通して得られた気づきを質的に高める指導が十分に行われていないということが挙げられている。その課題に対応するために，学習指導要領では，見付ける，比べる，たとえるなどの多様な学習活動を工夫することが求められている。

そこで本稿では，気づきの質を高めるための「見付ける，比べる，たとえる活動」について具体的な実践を基に述べる。

1 「気づきの質を高める」ための工夫

気づきの質を高めるとは，

- 無自覚なものから自覚された気づきへと高めること
- 一つ一つの気づきから関連付けられた気づきへ高めること
- 働きかけた対象への気づきから自分自身への気づきへと高めること

である。

これからの生活科の学習をより一層充実させていくためには，対象に働きかけて得られた気づきをそのままにせず，自覚された気づきや関連付けられた気づきへ高めていくことが大切になる。また，このように

高めていく過程において，自分自身への気づきが見られるようになる。

そこで，「見付ける，比べる，たとえる活動」を工夫し，働きかけた対象への気づきを，比較したり，関連付けたりして考えさせる学習を繰り返していくことが重要となる。

2 「見付ける，比べる，たとえる活動」の基本的な考え方

気づきの質を高めるためには，「見付ける，比べる，たとえる活動」を取り入れるだけでなく，教師の働きかけや言葉かけ等の工夫が大切になる。

そこで，それぞれの活動の基本的な考え方を述べる。

(1) 「見付ける」活動

「見付ける」活動とは，見る，聞く，触れる，作る，探す，育てる，遊ぶなど，対象に直接働きかける活動のことである。

例えば，「葉っぱが帽子をかぶっているよ。」などの多様な気づきをさせる観察は「見付ける」活動になる。また，その気づきに対して，教師が「この帽子はなんだろうね。」という言葉かけをする

ことにより、児童に再度観察させながら考えさせることも「見付ける」活動となる。そのような活動により「それは、種だよ。黒いから種の皮だと思ふな。」という、より自覚された気付きへと高めることができる。

(2) 「比べる」活動

「比べる」活動とは、単に二つ以上の対象を比較するだけでなく、他者の気付きと自分の気付きを比較する活動も指す。

例えば、「花の咲いた後にナスの実ができていたよ。」という友達の気付きと、「ミニトマトも花の咲いた後に実ができていたよ。」という自分の気付きとを対比することができるような伝え合い交流する場合は、「比べる」活動になる。そのような活動により、その二つの気付きの共通点から、「どちらも花が咲いた後に実ができるんだ。」という関連付けられた気付きへと高めることができる。

(3) 「たとえる」活動

「たとえる」活動とは、対象や気付きをこれまで獲得した言葉を生かして「〇〇みたい。」「〇〇のようだ。」などのように表現する活動のことである。

例えば、種をまく活動の中での、「この土はふわふわしてるよ。」という気付きに対して、教師が「何みたいかな。」という言葉かけをすることにより、「ベッドみたい。」という児童が考えた言葉で表現する活動が「たとえる」活動となる。そのような活動を通して、より自覚された気付きへと高めることができる。

3 実践例

ここでは、単元「げんきにそだて」（第1学年）を基に「見付ける，比べる，たとえる活動」の工夫について紹介する。

この単元は、内容(7)「動植物の飼育・栽培」の学習であり、成長や変化に関する気付きや生命をもっている気付き、自分のかかわり方に対する気付きなどが求められている。そのために、「見付ける，比べる，たとえる活動」を繰り返し、動植物とかかわりを深めていけるよう、1単位時間の学習の充実が重要になる。

(1) 「見付ける」活動の工夫

ア 諸感覚を通じた観察活動の設定

生活科の学習では、児童が体全体で対象に直接働きかけることを何よりも重視する。そうすることが、対象からの多様な気付きを生み出すことにつながるからである。

そこで、アサガオの観察において、視覚のみでなく、



触覚，嗅覚，**写真1 触っての観察**聴覚を通して観察させ、多様な気付きを生み出させる。ここでは、**写真1**のようにアサガオに触ったり、臭いを嗅いだりする姿が見られ、「葉の裏がザラザラしていたよ。」「お茶の臭いがしたよ。」など諸感覚を通じた多様な気付きを生み出すことができた。

イ 表現活動の設定

絵や言葉などで表現することにより、活動や対象を見つめ直し、自分の気付きを確認したり、新たな気付きにつながったりする。

そこで、観察して気付いたことを絵や言葉で観察カードに表現させる活動を取り入れた。「葉っぱがザラザラしていたよ。」といった気付きを表現す

る中で、再度触れて確認させ、表現させることにより「葉っぱの後ろだけでなく、茎にも毛があるよ。」などのような新たな気付きにつながった。

(2) 「比べる活動」の工夫

ア 過去の対象を振り返らせる場の設定
過去の対象を振り返らせることは、現在の対象と比べることになり、共通点や相違点から気付きの質を高めるこ

<p>1 単元の目標</p> <p>(1) 「きれいなアサガオの花を咲かせたい」という願いを基に、水かけや支柱立て等の世話をする活動に進んで取り組むことができる。</p> <p>(2) これまでの経験を生かしたり、絵本や図鑑等で調べたりして自分なりに世話することができる。また、諸感覚を通して気付いたことや分かったことを絵や言葉などで表現することができる。</p> <p>(3) 諸感覚を通してアサガオとかかわる中で、アサガオの世話の仕方や成長の様子に気付くことができるとともに、アサガオを育てることができた自分のよさや成長に気付くことができる。</p> <p>2 本時(4/12時)</p> <p>(1) 目標</p> <p>ア 「きれいなアサガオの花を咲かせたい」という願いを基に、アサガオを観察する活動に進んで取り組むことができる。</p> <p>イ 見たり、触ったり、嗅いだりするなど、諸感覚を通した観察活動において、アサガオの成長に気付くとともに、自分自身や友達のかかわり方のよさに気付くことができる。</p> <p>(2) 実際</p> <p>〇〇〇は、「見付ける、比べる、たとえる活動」の工夫</p>		
過程	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ	1 前時までの活動を振り返り、本時の学習について話し合う。 きょうのアサガオさんは、げんきかな。	〇 これまでのアサガオの成長を振り返ることで、自分のアサガオをもっとよく観察したいという思いを高めるようにする。 過去の対象を振り返らせる活動
おみと	2 観察の仕方を確かめる。 (よく見る、よく触る、よく嗅ぐ、よく聞く)	〇 活動への見通しをもてるように、見たり、触ったりする等、諸感覚を通したかかわり方のよさを確かめる。
たしかめる	3 自分のアサガオを観察する。  葉っぱを触ったら少しザラザラしたよ。 なんだかお茶のにおいがしたよ。 4 観察して、気付いたことを交流する。 ほんとだ！よく見たら毛がついている。双葉はツルツルしていたよ。	〇 見たり、触ったりするなど、諸感覚を通した観察活動によって得られた一人一人の気付きを共感的に受け止めていくようにする。 諸感覚を通した観察活動 表現活動 〇 発芽の頃の様子を掲示し、成長の変化が捉えられるようにする。 過去の対象を振り返らせる活動 〇 新たな気付きをもてた子どもには、「どうしてそのことに気付いたのか」などの言葉かけを行っていく。 教師の働きかけ、言葉かけの工夫
ふかめる	5 これからの成長について話し合う。 6 観察してできたことや楽しかったことを紹介し合う。 ・健康観察するといろいろ分かるね。 ・これからもお世話をがんばろう。	〇 活動に戸惑っている子どもには、友達の気付きを紹介したり、一緒に観察したりするなどして、自分なりの気付きをもてるようにする。 教師の働きかけ、言葉かけの工夫 表現活動 〇 気付いたことを交流する場を作り、自分の気付きを友達の気付きと比べ、確かめたり、もう一度観察したりするなどしてより気付きの質が高まるようにする。 伝え合い交流する活動
【霧島市立陵南小学校 味園佳奈教諭の実践から】		

とができる。

そこで本時では、これまでのアサガオの成長の様子を写真2のように提示することで、比べながら観察しようという意欲を高めた。また、これまで記録した観察カードを振り返らせ、共通点や相違点に気付かせるよう工夫した。そのような活動により、「新しい葉っぱが出てきているよ。」「前よりつるが伸びてきているよ。」などのように気付きの自覚化を図ることができた。

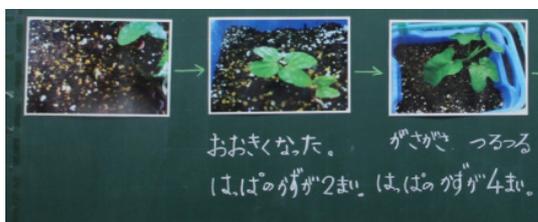


写真2 成長を振り返る場面の板書

イ 伝え合い交流する場の設定

伝え合い交流する場を設定することは、多様な友達の気付きと自分の気付きとを比べることになり、共通点や相違点が見付けやすくなる。

しかし、伝え合い交流する場を設定し、ただ児童の気付きを発表させるだけでは、効果が小さい。そこで、友達の気付きに注目させ、自分の対象や気付きと比べようとする教師の言葉かけが大切になる。

本時では、伝え合い交流する場における「茎が固くなっていたよ。」という気付きの発表に対して、教師が「みんなのアサガオはどうか。」と学級全体に言葉かけを行った。そうすることにより、再度自分のアサガオを観察し直し、「わたしの茎も固くなってる

よ。」「大きくなると茎は固くなるんだね。」などのように、関連付けられた気付きへ高めることができた。

(3) 「たとえる」活動の工夫

児童自らが自分の気付きをたとえて表現することは少ない。したがって、教師は、児童が活動中、一人一人の気付きを見取り、「何みたいかな。」と時宜を得た言葉かけをすることが大切である。

本時では、観察カードの「ザラザラする。」という表現を見取り、「何みたいだったかな。」と言葉かけを行った。そうすることにより、児童が「ひげがあるみたい。」と自分の言葉でたとえたことを通して、より自覚された気付きへと高めることができた。

これまで、「見付ける活動」「比べる活動」「たとえる活動」をそれぞれ分けて述べてきたが、具体的な指導場面では、「見付けて比べる活動」「見付けてたとえる活動」などのように、それぞれの活動を関連させながら取り入れることが大切である。

また、「見付ける、比べる、たとえる活動」を取り入れていくことを目的とするのではなく、そのような活動を通して、気付いたことを基に考えさせたり、表現させたりして、児童一人一人の気付きの質を高めていくことが重要である。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『小学校指導要領解説 生活編』平成20年、日本文教出版

(企画課)